

八名川小学校 学校だより

第350号／平成25年度1月号

ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260

今年も八名川まつりに大注目

校長 手島利夫

「八名川小の子どもたちに感動しました。どの子どもも自分が準備してきたものを誇らしげに発表していて、素晴らしいです。イベント的でなく、日頃からの問題解決的な学習を通して子どもに力を付けていくという学習過程の大切さを実感しました。」

これは昨年度の八名川まつりに他県から来校した先生方の言葉です。また、子どもたちも、

「全部をインターネットなど、機械を通して調べるよりも、自分で体験することで物を深く考えられたり、そこで人の気持ちもわかったりするように思います。」

「今やっている勉強は、色々な情報を見て、自分の考えをもつことに役立つと思います。

また、その考えを人に教えたり表現したりする時にも活かせると思います。」

「みんなが一生懸命になって自分の夢について話し合い、アイデアを出し合って協力しながら取り組んでいる時、楽しいと思います。」

などの意見や感想を出してくれました。そこには、体験の重要性や、情報を活用し、伝えることの大切さ、協力する楽しさなどに触れられていました。

このように、学校の教育課程の中に『八名川まつり』という学習発表・交流の機会を意図的に設けることが子どもたちの学習意欲を高め、創造的なコミュニケーション能力を育み、学び方・伝え方への自信を深め、成長への期待と八名川小学校で学ぶ誇りを育てているように思うのです。

今年の八名川まつりにも、園児のみなさんをはじめ、保護者や地域の方々、学校・幼稚園・保育園等の先生方、JICAなどの関係機関や大学関係者、関係省庁の方など多くの方々が来てくださいます。色々な方のご意見もいただきながら、子どもたちの自信と誇りを高め、同時に、八名川小学校の教育の充実を図ってまいります。

多くの皆さんのお越しをお待ちしております。

小松ありさ先生が産休に入り、藤岡幸子先生が産休代替教員として着任

12月に行われた保護者会で1年の保護者の皆様にはご紹介しましたが、1月4日付けで小松ありさ先生が産休に入り、産休代替教員として藤岡幸子先生が着任いたしました。1月8日から、1年1組の担任として子どもたちのお世話をしていきます。ベテランの先生ですが、学校や地域になれない点もあると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

八名川小学

第349号校平成25年度12月号

八名川小学校ホームページアドレス

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

学校だより

ユネスコスクール
江東区立八名川小学校

TEL 3631-2260

八名川小の教育に注目が集まる

校長 手島 利夫

本校のE S D（持続可能な未来のための教育）を中心とした教育に、『新しい時代を拓く優れた実践』として国内外から注目が寄せられています。

10月31日には世界酪農サミット関係者50名の訪問（4年生が給食に関するプレゼン等で対応）、11月には11日に国連大学上級副学長・東京大学サステイナビリティ学連携機構長の武内和彦先生、文部科学省国際統括官付国際戦略企画官の靱井圭子さんの実践視察、21日には宮崎県綾町教育委員会からE S Dの推進方法についての視察（5名）がありました。

また、25～29日には滋賀県彦根市立城陽小学校から中村徹先生の研修派遣を受け入れ（5年2組を中心に全校で対応）、26日にはスウェーデンのオレブロ大学から、ヨハン・オーマン教授、ボディル・スンドベリ教授、横浜市立大学に助教授としてフランスから来日中のオリビエ・ジョルベ先生、オレブロ大学客員研究員の浅野由子さんが日本におけるE S Dの理論と実践を視察されました。この方々は本校の校内研究会にも参加され、5年生の研究授業「地震だ！こんな時どうする」や、研究協議会にも参加され、貴重な授業論の交流ができました。

更に、28日には教育新聞4面に、文部科学省初等中等局教育課程課調査官田村学先生と校長との対談『E S Dの成果をどうとらえるか』全面で掲載（ホームページ上に近日公開予定）、12月1日にユネスコスクール全国大会「E S Dの成果」分科会にて黄地研究主任が発表、6日（展示会の日）には中国からユネスコ教育視察団30名の来校も予定されています。



これらは、本校児童に日本や世界の教育課題である『(厳しい時代にたくましく) **生きる力**』が育っていることを踏まえ、その教育理念や手法に対して大きな共感や関心が寄せられている証しでもあります。外部からの注目や高い評価を力に、児童の誇りや自信を一層、育ててまいります。

写真：5年2組の授業を参観する左からヨハン・オーマン教授、浅野由子研究員、鶴殿先生、オリビエ・ジョルベ先生、オーマン教授のお嬢さん、ボディル・スンドベリ教授、中村徹先生

八名川小学校

第348号／平成25年度11月号

八名川小学校ホームページアドレス

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

学校だより

ユネスコスクール

江東区立八名川小学校

TEL 3631-2260



「祝 ダブル受賞！八名川の地域力」



校長 手島 利夫

学校公開には、多くの保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。児童にとって、うれしく励みになったことと思います。台風で延期になったミニ音楽会は、11月6日（水）10時30分より行いますのでよろしくお願いいたします。

さて、「東京都教育の日」記念事業として、11月2日（土）に、東京都庁第一本庁舎にて、学校支援団体等感謝状贈呈式が行われます。学校教育活動支援部門で、八名川ファミリー校友会が、そして、地域における児童・生徒の育成活動部門で、八名川小学ウィークエンドスクールがそろって受賞することとなりました。喜ばしい限りです。

八名川ファミリー校友会は、「地域の子どもは、地域で育てる」という意気込みをもち、学校と地域とのパイプ役になることを目的に平成22年2月以来、活動を続けてきました。お花・墨絵・俳句・歴史を語る会等講座や様々なボランティア活動への協力、ゲストティーチャーの紹介や派遣、あるいはファミリーカレンダーの発行等で学校教育を支えていただいております。

また、**八名川小学ウィークエンドスクールは、地域が連携して子どもたちの健全育成に寄与することを目的に、11種類で年間に63回の講座が開設されており、昨年度は、児童1560名と保護者513名の合計2073名の参加**をいただいております。「墨絵」「ゴスペル」「盆景」等、他では見られないような多彩な講座が用意され、他校に比べて圧倒的な参加者数があり、親子での参加が多いのも特徴です。

本日10月31日は横浜で開催中の**世界酪農会議**に外国から参加されているお客様のうち、**47名**が、本校を訪問され、日本における給食と乳製品について見学されました。「子どもたちにとっての給食」については、**4年生児童が16グループ**に分かれ、体育館の4つのコーナーでプレゼンをし、**日本の子どもの代表**として発信をしてくださいました。11月17日には**同窓会総会**も3年ぶりに開催されます。またそれに合わせて、**P T Aバザーや、ウィークエンドスクールの発表**等も行われます。皆様ご参加くだ

さい。

八名川小学校 学校だより

第347号／平成25年度10月号

ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260

元気なあいさつ八名川スマイル

校長 手島利夫

八名川小学校では、笑顔であいさつを交わす中から、互いに気持ちのよい学校生活を進め、これを地域にも広げていきたいものと思っております。

しかし、夏休み明けから、児童のあいさつが少し低調かなあと感じていたところ、6年生の男子が自主的に校門に立って、自分たちからあいさつ運動をし始めてくれました。

どうせなら、実際の状況を調べてそれを元に全校の取り組みに広げませんかと声をかけ、この子たちに実態の調査をしてもらいました。

実は、昨年12月のアンケート調査では、「元気なあいさつ八名川スマイル」についての児童の自己評価が、○と◎の合計が92%となっていました。「あまりできなかった」と思っている子は8%しかいませんでした。

◎ 51%

○ 41%

×

しかし、9月20日に6年生に見てもらった結果は、「元気なあいさつ」ができている子は58%しかいませんでした。42%の子の声は、はっきりとは聞こえなかったそうです。

元気にあいさつができている子 58%

×あいさつの声の小さな子 42%

また、「八名川スマイル」については、相手に顔を向け、笑顔であいさつしている人を探してもらいました。その結果、顔や目を合わせられていない子が59%にもなりました。

相手を見て笑顔のあいさつ 41%

×顔や目を合わせていない子 59%

そこで、次の全校朝会では、6年生の集めてくれた資料を上のようなグラフで示し、「元気なあいさつ八名川スマイル」は、本校の大切な財産であることや、相手の顔や目を見てあいさつできると、心がつながることなどを話しました。また6年生が中心になって、問題を発見し、自分たちの手で解決を図り、その結果、学校生活が豊かになっていくことの素晴らしさについても話しました。

八名川小学校では、6年生のリーダーシップが学校の良さを創っていくことを実感しています。ご家庭の連携もよろしくお願いいたします。

八名川小学校 学校だより

第346号／平成25年度 9月号

ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260

地域は屋根のない学校です

校長 手島利夫

地域は屋根のない学校です。子どもたちが様々な方と出会い、実物を見て、ふれて、感じながら、体験的に学ぶことができる場です。

また、地域の行事に参加したり、地域から学び地域に向けて発信したりすることを通じて、この町に暮らす一員としての自覚や誇りを育むこともできるのです。

この夏休み中にも、子どもたちは様々な行事に参加させていただき、皆様のお世話になりながら、充実した生活を送ることができました。

ラジオ体操では、地域の方々に包まれるようにして並ぶ子どもたちの幸せを感じました。西部連合のキャンプでは、多くの大人だけでなく、ジュニアリーダーにもお世話になりました。盆踊りでは、櫓の上でも踊らせてもらいました。かげ祭りでも、子ども御輿は盛大に出していただきました。

P T Aのラストサマーフェスティバルや学校のプール等も合わせると、実に多様な機会をいただいていることに驚くとともに、関係された方々に心よりお礼申し上げます。

さて本校では、このように素晴らしい八名川地域の教育力を活かし、学校教育のあり方をも変えうる試みに取り組んでおります。

知識理解に偏った教え込みの教育から、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」「学び方や物の考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」を目指した「新しい学力観」に基づく教育です。

例えば6年生では、国語の「町のよさを伝えるパンフレットを作ろう」という学びや、社会科の「江戸の文化をつくりあげた人々」、道徳の「古きよき心」等を関連づけ、総合的な学習の時間に「江戸深川の歴史王になろう」という単元を設定します。

この学習の導入には、地域にお住まいの時代小説家・牧秀彦さんが先生として、子どもたちに語りかけてくださいます。8月28日の学習では、深川の土地の成り立ちや、当時の交通の大動脈であった小名木川など運河の重要性に気づき、水運で発展してきた深川地区に生まれた文化の代表として世界のSushi!「にぎり寿司」の誕生等も語られます。

ここで使われるのは『八名川ファミリー』の「八名川の昔を語る会」で語られ、まとめられつつある資料をわかりやすく加工したものです。

子どもたちは、この町に育ち、暮らしていながら知らなかった事実に驚き、疑問をまとめ、テーマを絞って調べ、5年生や保護者・地域に向かって発表も計画していきます。

このような学習をコーディネートし、子どもの学びに火をつける指導力のある教師を目指し、本校の先生たちは研究や研修に励んでいるのです。

八名川小学校 学校だより

第345号／平成25年度 7月号

ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260

プール開きは夏開き

校長 手島利夫

6月25日(火)、PTA役員さんをお迎えして高学年のプール開きが行われました。学校公開も終わり、いよいよ夏本番ですね。プールからあふれんばかりのこどもたちの様子でした。地域や保護者の皆様のおかげで児童数が380名にまで増え、活力ある学校づくりが進んでいることも、うれしく思っております。

水難事故防止のために、5・6年児童には7月12日(金)に着衣水泳の指導・訓練も計画しております。

安全で実り多い水泳指導を進めるために、職員全員がAEDの使用も含めた救急救命訓練を受講し、市民救命員証もいただきました。水泳指導の研修を進めると同時に、水質管理や危機対応力を身につけることも、児童の成長を支えるものと確信しております。

また、夏休みに向けて、学校では水泳指導や、臨海学校への準備、学習教室の計画等、進めておりますが、PTAでもラストサマーフェスティバルへの取り組みが進んでおります。子どもたちにとって忘れられない思い出ができることと思います。

地域では、朝顔市(6月30日・神明宮)や、6ヶ町納涼大会(8月1～3日)江東区少年団体西部連合会のキャンプ(8月2～4日)など、児童にとって楽しい企画を準備してくださっています。

朝顔市で町の皆様に囲まれて演奏するこどもたちの晴れがましさを、浴衣姿で盆踊りに集まるこどもたちの愛らしさは、世代をつなぎ、町を明るくしてくれるものと思います。

成長著しい子どもにとって、今年の夏は一度限りのものです。学校・PTA・地域が連携しながら、子どもたちに価値ある体験を重ねさせたいものです。



2時間に及ぶ講習会に全職員参加

朝顔市では

- ・八名川小吹奏楽部は9:00から
 - ・合唱&ゴスペルは10:30から
- 出演するそうです。

お天気が心配ですが、応援をよろしくお願いいたします。

八名川小学校 学校だより

第344号／平成25年度 6月号

ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260

心を燃やした運動会

校長 手島利夫

「行くぞー！ 心をもやして 笑顔で優勝 運動会」のスローガンの通り、赤組も白組も、笑顔での演技と優勝を目指した競技とに全力で取り組みました。

また、一人一人が自分の立てた目標に向かって力を出し切ったからこそ、流した汗にも疲れた体にも、心を燃やした充実感をもてたのではないのでしょうか。

保護者の皆様、PTA役員の皆様には、練習前から当日まで様々な場面でご協力いただき、ありがとうございました。そして、日頃より本校の教育に対し、寛容な心で温かくご理解・お見守りくださっている近隣・地域の皆様に心よりお礼申し上げます。この運動会を契機に、ますます体育活動の充実と体力の向上を図ってまいります。

政府広報番組をご覧ください

政府広報のインターネットTV番組「徳光&木佐の知りたいニッポン！（ESD特集）」に、文部科学省のご紹介で八名川小学校の取り組みも紹介されることになり、5月22日に5年生の授業風景が撮影されました。

毎年6月に行われる江東区の「CO2削減こどもアクション」関連の指導で、江東区温暖化対策課と日産自動車のご協力による出張授業になりました。正に、「産・官・学連携」の見本のような学習でした。本校児童の学びが政府広報にまで取り上げられることに、誇らしさを感じております。6月20日から配信開始予定です。

八名川小学校 学校だより

第343号／平成25年度 5月号

ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260

伝統とチャレンジシップの重視

校長 手島 利夫

春の風に乗って登校する子ども達の安全を保護者や地域の方々が見守り、玄関では、満開の花々が迎えます。校庭では緑の芝生が迎え、教室では先生や友達が待っています。八名川小学校は、温かな心と人のつながりでできていることを毎日うれしく感じています。

世間では道德教育の重視が声高に言われていますが、本校児童の心は豊かな環境と温かな思いやりで育っているのですね。

木曜の朝には、全学級で読み聞かせが行われ、子ども達の様子はホームページで毎日伝えられています。また、ウィークエンドスクールでは、11講座に年間2000名以上の参加者があり、区内随一だそうです。ご家族での参加が多いのも本校の特徴です。

本年度は、児童数が379名まで増加しましたが、そのような中でも、地域の良さを活かしたアットホームで手作り感のある学校づくりを進めてまいります。6月2日の運動会など、様々な行事でもチャレンジシップを大切にすることで、皆様と一緒に新たな伝統を創りだしていけるよう、工夫してまいります。

また、地域に残る素晴らしい文化を活かし、ふれ合いを大切にしながら、授業づくりでも工夫していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

八名川小学校 学校だより

第342号／平成25年度 4月号

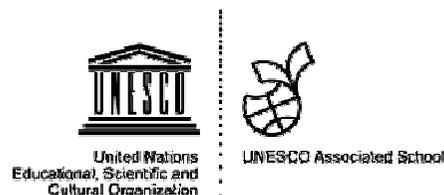
ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260



学校教育を通じて 地域の未来を創ります

校長 手島 利夫

67名の新一年生を迎え、児童数379名、12学級で平成25年度が始まりました。保護者の皆様、地域の皆様と力を合わせ、ユネスコスクールとして**地域社会の未来の担い手を育みます。**

八名川小学校の子どもたちの成長を通して、この町に明るさや希望をお届けできるようにがんばりますので、よろしく願いいたします。

元気なあいさつ八名川スマイル

元気なあいさつと輝く笑顔は、八名川小学校の宝ものです。あいさつから始まる豊かな人間関係を学校から地域に広げ、町を元気にしていきます。

充実した授業で楽しい学校生活

何よりも意欲を持って学ぶことが**学力向上と楽しい学校**への道です。ESD大賞受賞校として、誇りをもって研究・実践に取り組み、その成果を児童の姿を通じて国内外に発信いたします。

発見・感動・創造の俳句教育

芭蕉さんから小山先生からも学び、八名川小学校の文化や心意気を大切にします。日常的に俳句に取り組み、発見する眼、感動する心、創造する意欲を育てます。八名川小学校から、そして江東区から児童俳句の楽しさを全国に発信すると同時に、**地域の文化や歴史**に対する誇りを育てます。

保護者・地域・専門家との連携

芝生・お花・ホームページ・読み聞かせ・図書などのボランティアの素晴らしい活動や、放課後のげんきっずとの連携、土曜日のウィークエンドスクールの充実、わんぱく相撲など様々な大会への参加と盛り上がり、専門家の方々を招いた特別授業などが、子どもたちに**感動やあこがれ**を育て、**学習や生活を豊かなもの**にしています。

充実したカリキュラムを創り、皆様のご協力で一層発展させていきます。またPTAや、**やながわファミリー**のご支援をいただきながら「世界に誇れる教育」を実現するとともに「学校を中心とした、世代を越えた学びの広がり」も大切にまいります。

八名川小学校 学校だより

第341号／平成24年度3月号

ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260

「誇りをもって学べる学校づくりを進めます！」

校長 手島 利夫

平成24年度も、「元気なあいさつ八名川スマイル」を合い言葉に、ユネスコスクールとして地域に根ざし未来を目指した教育に向かい、研究・実践と成果の発信に努めてまいりました。

具体的には、「児童の学びに火をつける」をキーワードに教師の授業力を高め、児童の主体的な学びを実現することや、地域の伝統である俳句を取り入れ、発見・感動・創造の心を培うこと、外部講師や保護者・地域の教育力を取り入れ多様で豊かな学びの場を作ること等を重視してまいりました。

おかげさまで、様々な行事の中でも子どもたちのがんばる姿をご覧いただくことができました。これもPTAを中心とした保護者の皆様や、町会や八名川ファミリーを中心とした地域の皆様方の温かなご理解と、ご支援・ご協力のおかげと、お礼申し上げます。

1月に行った児童へのアンケート調査では、下の表のような答えがありました。 (%)

	学習に進んで取り組む				俳句づくりに進んで取り組む				学校が楽しい			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
低学年	45	46	7	2	58	34	5	3	69	25	4	3
高学年	32	56	11	2	42	47	9	2	67	28	3	2
	地域の行事に参加した				外部の大会に参加した				地域の人たちにあいさつできた			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
低学年	34	34	25	7	35	21	16	28	56	35	8	1
高学年	39	28	16	16	27	29	17	26	46	47	6	1

A・・・よくできた B・・・まあまあできた C・・・あまり D・・・いいえ

太字の部分 は昨年度以上に児童の自己評価が高くなったところです。

2月22日に開催された学校評議員会でも、上記の調査結果や今年度の学校の取り組み全般を踏まえ、「学校に来ると、元気にあいさつをしてくれるのがうれしいです。」「ESDという教育は素晴らしいですね。それが子どもたちの勉強に対する姿勢に現れています。」という高い評価もいただきました。

また、本校がユネスコスクール全国大会でESD大賞を受賞したことを受けて、八名川地区の連合町会やPTAからお祝いをいただけること、心よりお礼申し上げます。

私ども教職員一同、心を引き締め、教育活動の一層の充実を図り、どの子にとっても楽しく、誇りをもって学べる学校づくりを進めてまいります。

八名川小学校 学校だより

第340号／平成24年度2月号

ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260

「八名川の子どもたちに心打たれました！」

校長 手島 利夫

先日の八名川まつりには多くのご家族の皆様、そして地域の皆様方のご来校をいただき、ありがとうございました。おかげさまで大勢のお客様に向かって、子ども達が日頃の学習成果を活かし、楽しく有意義な発表に取り組むことができました。

お客様の中には、滋賀県彦根市や、九州の福岡県大牟田市から泊まりがけで来校された先生方もいらっしゃいました。また、様々な大学の教授や都内区市の教育委員会や文部科学省の方々もいらっしゃいました。公立小学校の、研究発表会でもない子どもの行事に、普通ではあり得ないことです。

これらの方々が口をそろえて八名川小学校の子ども達の素晴らしさを絶賛してくださいました。「どの子も、自分が準備してきた内容を堂々と、表現豊かに発表しているのが印象的です。改めて、イベント的でなく、問題解決的な学習過程を通して子どもの学習を進めていくことの大切さを実感しました。」「中学校や高等学校の学園祭のようですね。質問にもしっかりと応えているので驚きました。」等のお声です。

区内の幼稚園、保育園、小・中学校の先生方も参観し、様々なご意見をお寄せくださいました。

これらを活かし、子ども達の自信と誇りを高めると同時に、職員の研鑽にもつなげてまいります。



八名川まつり3年「学校が避難所だったら」コーナー

また、先月お知らせしたESD大賞の受賞については、30日に号外がPTAより出されておりますので、そちらをご覧ください。

八名川小学校 学校だより

第339号／平成24年度1月号

ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260

「楽しく学び甲斐のある夢の学校」

校長 手島 利夫

新年明けましておめでとうございます。旧年中はお世話になりました。おかげ様で八名川小学校は、子どもにとって楽しく学び甲斐のある夢の学校を実現しつつあります。日頃の学習にも運動会や学芸会などの行事にも目の色を変えて真剣に取り組み、皆様方から絶賛いただける子どもたちが育っていること、誇りに感じております。また、それを導く職員のチームワークと、保護者・地域の皆様のネットワークに心より感謝しております。

「ユネスコスクール八名川小学校」の実践やその成果につきましては、教育新聞の紙面上で、平成23年秋より毎月の連載で15回にわたり発信されてまいりました。また、それを受けるように国内外から様々な来校者の受け入れも進めてまいりました。さらに様々な教育研究会・教育学会でも、あるいは文部科学省主催のユネスコスクール研修会等でも本校の取り組みが語られ、八名川方式の学びが全国各地で進められております。

それらの成果も踏まえて、1月26日に奈良教育大学で行われる、ユネスコスクール全国大会において、全国で最も優れた教育実践校に贈られる『ESD大賞』をいただけることになりました。この受賞が児童や職員に「楽しく学び甲斐のある夢の学校」としての自信と誇りを一層高めてくれるものと期待しております。

1月22日（火）の『八名川まつり』には「八名川小学校の子どもたちに会いたい」「その姿を見たい」と全国各地からユネスコスクール関係者・研究者・学生さんたちが来校されます。近隣の保育園児も遊びに来てくれます。これらの機会にも、本校児童の素晴らしさを大いに伝えてまいりたいと思っております。

後日ご案内をいたしますので、保護者の皆様にもご来校いただけましたら幸いです。



※ESD：ユネスコが進める持続可能な社会づくりの推進者として必要な資質・能力の育成に取り組む教育、

八名川小学校 学校だより

第338号／平成24年度12月号

ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260

「圧倒的な学芸会を創りましょう！」

校長 手島 利夫

学芸会は学びの結晶です。学校の総力が現れます。児童一人一人の気合いと努力、それを支え合う仲間たちの姿をお見せします。自分がどんなどんなに失敗しても、温かく認めてくれると仲間を信じられる。だから大きな声も出せるし精一杯の演技もできるのです。いじめや不信感のある中では、不安で自分をさらけ出せないものです。

劇の出来、そのものも大切ですが、子どもたち一人一人の取り組む姿勢や協力し合う姿もご覧ください。また、この日のために、衣装や小道具づくりに、あるいはダンスの振り付け等々でご協力くださった保護者の皆様に心からお礼申し上げます。

仕上げは演ずるものと観る者との、心の通い合いです。一緒に圧倒的に素晴らしい学芸会を創りましょう。ご家族の皆様、そして地域の皆様方の温かな拍手と応援をよろしく願いいたします。

PTA広報紙が絶賛を受けています！

11月23日（金）文部科学省・ユネスコアジア文化センター主催の「ユネスコスクール地域交流会 in 関東」（多摩市にて開催）に参加し、八名川小学校の子どもたちの取り組み、そして教師の研究について発表してまいりました。その際、PTA広報紙のユネスコスクール特集の記事をお配りし、説明もいたしました。保護者の皆様の学校教育に対する理解の深さと協力に向けた意識の高さが、文部科学省の方も含め、参会者から絶賛していただきました。誇らしく、またうれしく感じております。

八名川小学校 学校だより

第337号／平成24年度11月号

ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260



「実りの秋、次は学芸会だ！」



校長 手島 利夫

学校公開・ミニ音楽会には、多くの保護者の皆様が来校され、温かなご声援をいただき、ありがとうございました。児童にとって、うれしく励みになったことと思います。また、当日の学校説明会では、他区の保護者の方々から「転居してでも八名川で学ばせたい」とのお話をいただきました。地域や保護者に見守られ、児童や職員のがんばる姿に魅力を感じていただけたのだと感謝しております。

次は学芸会です。今から八名川小の子どもたちの活躍と盛り上がりを楽しみです。「そんなに行事にばかりがんばっていて大丈夫なのですか」というお声が聞こえてきそうですが、大丈夫です。**児童の意欲や能力は転移します**。常にチャレンジし、成長することで、一層高い目標を目指す意欲が生まれるのです。

子どもでも大人でも、何かにチャレンジしてそこで全力を尽くした時に、「がんばって良かった」と、充実感や達成感を感じる事が重要なのです。ですから、先日の学校公開やミニ音楽会に皆様がおいでになり、見守り、大きな拍手をしてくださったことが、八名川小の教育を進めてくださっているのだと思うのです。

また、このように忙しく行事を進めている時でも、先生達は日頃の授業もこなし、校内研究・研修にも取り組んでいます。学芸会までの間にも、3年と1年での研究授業が行われます。本校の校内研究には、都内外からの参観やESDを研究する大学の先生方や研究機関の方々も参加されますので、なかなか気が抜けないかもしれません。また、そのような中でも東京都の教育研究員として、東京都教師道場の部員として、あるいは公的・私的な勉強会に参加するなど、様々な努力が続けられているのです。

先月から裏面に掲げた教育新聞の記事で発信しているのは、ユネスコスクール八名川小学校の経営や研究の進め方、あるいは成果についてお伝えしている15回連載のうち、職員の努力や児童の成長に関わる内容の部分です。地域や保護者の皆様方に支えをいただき、ユネスコスクールとして発信のできる学校であることに感謝しております。

八名川小学校 学校だより

第336号／平成24年度10月号

ユネスコスクール

八名川小学校ホームページアドレス

江東区立八名川小学校

<http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

TEL 3631-2260



「表彰はうれしいけれど・・・」



校長 手島 利夫

猛暑から一転、秋風の心地よい頃となりました。校庭のミニ水田にも実りの秋が訪れました。10月5日で前期が終わりますが、お子様の成長の足跡をお伝えできること、うれしく思っております。後期には学校公開・ミニ音楽会、PTA観劇会、学芸会、八名川まつり等々の行事がありますが、よろしくお願ひいたします。

さて、江東区・東京都では例年、温暖化対策として「カーボンマイナスこどもアクション」への取り組みを5・6年生中心にご家庭に呼びかけてきました。内容は、二酸化炭素削減を目指した節電等の取り組みです。

八名川小学校では、これらを「やらされる活動」から「子どもが必要感をもちながら、自分たちの問題として取り組める活動」に、教科や道徳、総合的な学習の時間等のつながりに創意を重ね、「ぼくら地球案内人！」という単元を5年生で開発してきました。子ども達の問題意識を高める場面では、江東区の地球温暖化対策課の協力をいただいて基本的な事実を把握したり、国際会議で環境問題の大切さを訴える少女（セバン・スズキさん）のビデオを見て自分の考えを振り返ったりしました。また、各自が決めたテーマについては、図書やインターネットで調べるだけでなく、JICA地球広場を見学し、国語の「インタビューの仕方」や「報告書の作成方法」を活かし、社会科の「わたしたちの生活と環境」と関連を図りながら学習を進めました。

これらの学習を踏まえ、ご家族の協力をいただきながらも、自分たちの未来にかかわる問題として「こどもアクション」に取り組んできました。すると、江東区から「区内で上位に入りましたので、カーボンマイナスこどもアクション表彰式・講演会においでください」と、5・6年の児童に招待状が来ました。〔10月22日(月)1時15分ティアラこうとう〕記念講演で、さかなクンの話も聞けるそうです。良かったですね。でも私は、表彰よりも、本気で考え、調べ、家族に伝え、実践を続けた子ども達と、それを受け止めて一緒に取り組んでくださった保護者の皆様を誇らしく思います。

本校歯科校医の鈴木弘子先生には、7月13日、薬石効無くご逝去されました。本校児童の健康づくりにご尽力された功績に感謝し、ご冥福を祈ります。また、後任には、引き続き浅野歯科医院から鈴木丈一郎先生にお願いすることとなりましたので、お知らせいたします。